

令和2年度第3回岡山市基本政策審議会会議録

令和2年10月29日（木）

1 開会

○司会 それでは、定刻が参りましたので、ただいまより令和2年度第3回岡山市基本政策審議会を開催いたします。

本日の司会を務めさせていただきます政策企画課長の榎並でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、大森市長からご挨拶申し上げます。

2 市長あいさつ

○大森市長 はい。皆さん、こんにちは。岡山市長の大森でございます。今日はお忙しいところ、基本政策審議会にご出席をいただきまして、ありがとうございます。

まず、新型コロナウイルスでありますけれども、岡山市は現時点で124名。決して少ない数ではございませんけれども、重症者もほとんどいない状況になっております。ほとんどが軽症ないしは無症状ということであります。クラスターが4件出ていますが、そういう面では深刻な形にはなっていないと思っております。しかしながら、感染拡大の防止に気を緩めてはならないと思っております。防止策を図りながら、社会活動、経済活動の両立を図っていきたいと思っております。ただ、心配なのは、岡山でも津山、総社、そういったところで少しくラスターが出てまいりました。全国的に見ても、特に北日本のほうが多く感染者が出ているところであります。これから全体の状況を見ながら、適時的確に方策を打っていきたいと思っております。

今日の審議会、素案も出させていただきます。そして、その中で前期の5年の中で大きな事案としては、今申し上げた新型コロナウイルスの関係が一つあります。そして、もう一つは、2年前の西日本豪雨であります。こういった新たな未曾有の事態を踏まえて後期どうしていくかというのは一つ大きな問題になるんだろうと思っております。そのほかにもぎわいを持たせるまちづくり、それから子育ての問題、教育の問題、課題は多々あるわけでございます。今日また案を示させていただきますので、忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願い申し上げます。

3 委員の出席状況

○司会 続きまして、本日の委員の皆様の出席状況でございますが、現在8名の委員のご出席をいただいております。委員過半数のご出席をいただいておりますので、当審議会は成立しておりますことをご報告いたします。

本日の議事運営について事務局からお願いでございますが、ご発言の前には挙手をいただきまして、議長が指名した後にご発言いただきますようよろしくお願いいたします。

これからの議事運営につきましては、阿部会長よろしくお願いいたします。

○阿部会長 皆さんこんにちは。阿部でございます。この基本政策審議会の会長を務めさせていただいております。本日も会議の進行を務めさせていただきますけれども、市長からのお話にもありましたように、本日は後期中期計画の素案が出されておまして、この基本政策審議会の一番中枢になる会議かなと思います。闊達なご議論をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、会議の公開と傍聴の取扱いにつきまして事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局 はい。本日は、現時点で傍聴希望者が1名いらっしゃいます。特に支障がなければ、会議の公開と併せて傍聴の許可をいただければと思います。

○阿部会長 今ご説明にありましたように、現時点で傍聴希望者が1名おられるということでございます。本日の審議につきまして特に支障になる事由はないと思われまので、本会議は公開とし、傍聴を許可したいと思います。委員の皆様、ご意見いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 ありがとうございます。それでは、本日の会議の傍聴希望者には傍聴を許可したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

4 協議

(1) 岡山市第六次総合計画「後期中期計画」の策定について

①行財政運営

○阿部会長 それでは、協議に入らせていただきます。

お手元の会議次第でございます協議事項、岡山市第6次総合計画「後期中期計画」の策定についてということで、1番目の行財政運営につきまして説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

○政策局長 はい。それでは、岡山市の行財政運営について、お配りしている資料3に基づいてご説明をさせていただきます。

1ページ目をお願いいたします。

まず、財政運営に関するこれまでの取組ですが、財政健全化に向けて、資料左側に書かせていただいた各種取組、歳入歳出両面からの取組を進めてきた結果、財政指標は改善傾向を示しております。具体的には右側のグラフのうち、借金返済の負担の大きさを示す赤色の実質公債費比率、これは右側の目盛りになりますが、着実に減少をしております。また、将来負担の大きさを示す黄緑色の将来負担比率、これは左側の目盛りになりますが、こちらも減少傾向にありまして、平成29年度は義務教育教職員の費用負担が県から指定都市に移譲された影響で、教職員の退職手当負担見込額が上乗せされて一旦増加しておりますが、全体としては着実に減少していることがお分かりになるかと思えます。このように行財政改革の努力によって財政指標は改善傾向にはありますが、今後に向けた課題は山積しております、全く油断ならないというのが次のページになります。

2ページ目をお願いいたします。

まず、左上の社会保障関係費につきまして、高齢化の影響などで増加しております。平成21年度の675億円から令和元年度の1,082億円まで実に約400億円も増加しているところで、今後も増加することが見込まれているところです。

また、左下は青色のグラフがこれまでの箱物やインフラに関する単年度の投資実績でありまして、赤色のグラフがそれらを単純に更新した場合にかかる単年度の更新コストになります。398億円に対して449億円と、単純に更新した場合は毎年約51億円もの財源不足が発生することになりますので、統廃合や長寿命化によって財源不足を回避する必要があります。

ります。

それから、右上は防災・減災対策でありまして、全国的な自然災害の激甚化、頻発化、特に平成30年7月豪雨災害を踏まえまして、多額の財政需要が生じております。

それから、右下はコロナの対応でございまして、過去に例のない800億円を超える補正予算を既に計上しておりまして、先日の10月補正でも12億円を追加で計上しております。その一方で、歳入面の影響、つまりコロナの影響で税収が減少することも見込まれますので、今後の財政運営にはこれまで以上に厳しいものがあるということになります。

3ページ目をお願いいたします。

今の公共施設等の総量を維持したまま更新を行っていくと多額の財源不足が生じるわけですが、そのような事態を回避するため、公共施設等総合管理計画なるものを策定しておりまして、全庁的かつ中・長期的な観点から公共施設等の統廃合、更新、長寿命化を行うこととしております。具体的には資料左側の下線部に記載しておりますが、今後40年間で10から15%程度の延べ床面積の削減を目標に取り組むこととしておりまして、既に右下に記載しているような集約化、複合化の事例も出てきているところでございます。また、右側の図にありますとおり、この総合管理計画はあくまでも総論にすぎないわけですが、各論に当たる個別施設計画についても策定作業を進めておりまして、今年度末までに策定を完了する見込みであります。

次に、4ページをお願いいたします。

行政のスマート化のうち、市民サービスの向上についてご説明いたします。

住民の皆さんが区役所や支所、地域センターにわざわざ足を運ばなくても、いつでもどこでも手早く簡単に行政手続を済ませられることを目指して、押印、書面、対面主義からの脱却にこれまで以上に取り組んでまいります。これまではマイナンバーカードによるコンビニ交付や電子納税、キャッシュレス決済、AIチャットボットの試験導入などに取り組んできたところですが、今後市民サービスのさらなる向上につなげるべく、押印の見直しや行政手続のさらなるオンライン化、手数料へのキャッシュレス決済の導入、窓口手続のワンストップ化、こういったことに取り組んでいく予定であります。

次に、5ページをお願いいたします。

次は、行政のスマート化のうち、業務の効率化についてご説明をいたします。

人工知能、AIですとか作業自動化のためのRPA、こういったデジタル技術を積極的に活用して業務の効率化を推進するとともに、職員はAI、RPAでは代替できない業務

に重点化することで行政の質を向上させてまいります。これまでもA I、R P Aの部分的な導入によって一定の作業時間の削減効果を確認してきたところではありますが、今後A I、R P Aが活用可能な業務をさらに洗い出しをしていくことで業務の効率化を進めてまいります。また、単に現行の業務フローのままA I、R P Aを導入するのではなくて、業務のプロセスの再構築、B P Rによって業務フロー自体を見直した上でA I、R P Aを導入していくことといたします。

さらに、現在は各自治体の情報システムが基本的にばらばらになっておりまして、業者から個別に調達をして個別に改修しているためにコストが割高になっていると言われておりますが、今後国が作成する標準仕様、この標準仕様に沿ったシステムを調達してコスト削減を図っていくということにしております。

次に、6ページをお願いいたします。

組織力の向上についてご説明いたします。

まず、現状についての説明になりますが、左上の実線グラフが岡山市職員の年齢別構成を表したものでありまして、過去、平成20年前後の採用抑制の影響によって30歳代の職員が少なく、年齢別構成にばらつきがあるのが課題となっております。そのボリューム不足の部分の少しでも埋めるという意味もありまして、左下に移りますが、新卒採用に加えて経験者採用や就職氷河期世代の採用を実施しているところであります。このことは市職員の市役所全体の組織力の向上に資するだけでなく、出産を機に民間企業を退職された方などの採用につながることで女性活躍の推進にも資することになります。

続きまして右上ですけれども、岡山市の職員採用試験の受験者数の推移になっております。少子化に伴って若年層の労働力供給が減少する中、受験者数は減少傾向にありまして、人材が希少化する中で行政サービスを支える優秀な職員をいかに確保していくかが課題となっております。

次に、右下、こちらが任期付職員の職員数の推移を表したものでありまして、従来のメンバーシップ型の公務員といいますか任期の定めのない常勤職員は数年ごとの異動を繰り返して定年まで勤め上げるケースが多いわけですけれども、任期付職員のように仕事にに応じて任用されるという意味でのジョブ型の職員も少しずつ増えてきておりまして、日本型雇用からの部分的な転換といいますか、公務員の任用形態にも多少の変化が見られるというところでございます。

次、7ページをお願いいたします。

人口減少に伴う人材の希少化ですとか働き方の多様化が進む中で、女性管理職の登用や働き方改革に積極的に取り組むことによって市職員全体の組織力を向上させるとともに、社会全体の流れを牽引することといたしております。左側のグラフのうち、青い折れ線、こちらが岡山市の女性管理職の割合の推移を表したものでありますが、平成24年は4.4%と低い水準にあります、その後積極的な登用によりまして全国平均や政令市平均を超えて、平成31年には13.3%にまで上昇をしております。

また、資料の右側になりますが、年次休暇や男性育休の取得促進など、働き方改革にも積極的に取り組んでおりまして、かつての週休2日制がそうだったわけですが、公務員が率先して取り組むことで社会全体の働き方改革の流れを促進することとしております。それから、テレワークにつきましても、今後取り組んでまいります。

最後に8ページをお願いいたします。

行財政運営に関する全体のまとめになりますが、コロナに伴う税収減のリスクがある中にあっても健全で持続可能な財政運営を引き続き確保していくとともに、デジタル化をはじめとする行政のスマート化、そして人材の希少化や働き方の多様化を踏まえた組織力の向上、こういったことに取り組んでいくことで必要な行政サービスの提供体制を確保していきたいと考えております。

説明は以上になります。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、ただいま説明のありました行財政運営につきましてご質問、ご意見ございましたらお願いしたいと思います。

○岡崎委員 今のこのグラフを見ていますと、やはり経常収支比率がずっと高止まりというか微増になるのでしょうか。やはり社会保障関係経費がずっと増えてきたら、今の伸びを見ますと相当な伸び方をしているなという感じで、このままいくとやっぱり投資的な経費というのを生み出すのはなかなか早晩難しくなるのかなというような気もするんですが、そのあたり他の政令市と比べてこの経常収支比率がどのくらいなのかということと、あと切り詰めるとしたらどこがあるのかということと、単純に言えば税収増が一番望ましいと思いますが、そのあたりの工夫をどうされていくのかというあたりがあれば教えていただきたいと思っております。

○財政局長 経常収支比率でございますが、政令市の中では、平成30年度の数字での比較となりますけれども、浜松市と同率で、政令市の中でトップという形でございます。ただ、ご指摘にありましたように、傾向としてほぼ横ばいではありますが微増というようなところもございます。切り詰めるところといいますと、経常収支比率でございますので、義務的な経費のところ、人件費、扶助費、公債費、そういったあたりの工夫ということになってまいります。扶助費につきましては社会保障費でございますので自然増といったこともございますが、それ以外のところでできる工夫をしてまいりたい。起債の借入れの抑制等にしっかり取り組んでまいりたいと考えてございます。

○岡崎委員 ありがとうございます。

○阿部会長 それでは、大森市長。

○大森市長 経常収支比率は岡山市が今言ったように一番いいんですけど、最も悪いのは京都市なんです。京都市は100を超えている。ここは我が国の構造的な問題があるんです。やっぱり大都市の財源が弱いついていうところがあって、あさって大阪都構想の結論が出てくるわけですが、大阪市もそういうふうになっているところがありまして、やっぱり大きくこれからの制度を変えていかないとならない問題なんですね。そういう面では今岡山市は何とか持ちこたえてはいるんですけども、そのようにメディアとしてもぜひ取り組んでいただきたいなと思うところであります。

○阿部会長 ありがとうございます。

杉山委員さん、お願いいたします。

○杉山委員 7ページの働き方改革等のところでございますけれども、確かに岡山市は政令市平均よりも高いし、全国平均より高いのですが、これからグローバル化が進んでいく中で、欧米などと比べてまだまだ日本は女性管理職の活躍が非常に低いのも事実です。例えば新市役所の計画が動いていると思いますが、多くの企業は現在託児所を社内に持っているということをやっています。そうでなくても岡山市はまだまだこども園とか保育所が足りないのであれば、せっかく新しい市役所の中にそういう施設を設置するというこ

検討されてはいかがかなと思います。

○阿部会長 ありがとうございます。何かご意見はございますか。

○総務局長 新庁舎につきましては、今年度、来年度で基本設計それから実施設計をする予定になっておりまして、その中でどんな機能、部屋を設けるかということも今検討中ですので、ご意見を参考にさせていただきたいと思っております。

○片山副会長 今杉山先生がおっしゃいました女性の活躍促進のところなんですけど、この審議会は割に女性の方が多いんですけども、市役所ではなくて、例えばこのたび新しくできました公益財団法人岡山文化芸術創造、そのほかの財団等の評議員や理事は女性がすごく少ないと思います。その岡山文化芸術創造の評議員をたまたま私が仰せつかっているんですけども、多分間違いじゃなければ女性は私一人じゃないかなと思います。それはちょっと少な過ぎるんじゃないかなと。いろいろな考え方があるのかなと思いますけれども、やはりポジションといいますか場を与えていただければ女性の活躍ももっと進んでいくんじゃないか、促進されるんじゃないかと思います。

また、テレワークで、ここに貸出用パソコンを今年度内に10台導入する予定と書いてあるんですけど、実際にこのテレワークとかオンラインでいろんなことをする場合、そのハードの面でかなりのお金がかかるんじゃないかと思います。その予算は次の中期計画のほうに入ってくるのかも分かりませんが、もちろん財政の緊縮は必要なんですけれども、新型コロナの状況下、大きい投資が必要でその財源についてどう考えるか、これからのことだとは思いますが、ちょっと心配しております。

○阿部会長 特にご発言ございませんですか。もしないようでしたら、次の2の後期中期計画素案とも絡む話も出てきておりますので、そちらのほうのご説明をいただいてから改めてまた議論したいと思います。ありがとうございます。

②後期中期計画（素案）

○阿部会長 それでは、次の2の後期中期計画素案について事務局から説明をお願いした

と思います。よろしく願いいたします。

○政策局長 それでは、後期中期計画の素案につきまして、お配りをしている資料4に基づいてその概要をご説明させていただきます。

まず、1ページ目は目次でございますので説明を割愛させていただきます、2ページ目からご説明をさせていただきます。

岡山市の第6次総合計画は、10年間の長期構想と5年ごとの中期計画から構成されておりまして、今回は令和3年度から令和7年度までの後期中期計画についてご説明をさせていただきますものとなっております。

次に、3ページをお願いいたします。

こちらは、平成28年度から今年度までの前期中期計画における主な取組を長期構想に掲げる3つの将来都市像ごとにまとめたものになります。

まず、将来都市像Ⅰ、経済・交流都市につきましては、拠点性を生かした企業立地について、各種補助制度の創設や空港南産業団地の整備によって企業立地件数が16件から60件に増加するなど大きな成果が得られているところでございます。また、創業しやすい環境づくりとしては、岡山駅前にスタートアップ支援施設ももスタを開設しております。

中心市街地につきましては、路面電車の駅前広場乗り入れや県庁通りの再整備、緑のボリュームアップ、さらには芸術創造劇場の整備に向けた取組など、歩いて楽しいまちづくりに向けた様々な事業を展開しているほか、民間の再開発プロジェクトも多数動いているところでございます。また、中心部のにぎわいを周辺部の皆様にも享受いただくためには公共交通の持続可能性の確保が不可欠でありまして、バスの非効率な重複路線の再編や運賃の適正化、高齢者の運賃割引などについて法定協議会での議論を着実に進めているところでございます。さらに、それぞれの周辺地域の中においても、デマンドタクシーの導入によって生活交通の確保を図っております。

観光、交流につきましては、桃太郎伝説で日本遺産に認定され、造山古墳ビジターセンターを設置するなどしているほか、ESDに関するユネスコ世界会議、日中韓3か国地方政府交流会議、さらにはG20岡山保健大臣会合など国際会議を相次いで開催しておりまして、コンベンションの参加者数や外国人宿泊者数が大きく伸びてきたところであります。

次に、4ページをお願いいたします。

将来都市像Ⅱ、子育て・教育都市につきましては、仕事と子育ての両立のための基盤整

備として、保育の受け皿の整備を進めて待機児童の解消に取り組んでおりまして、幼保無償化による保育需要の増加などもありましたが、待機児童数を減少させ、待機児童ゼロの目標達成が見えてきたところでもあります。放課後児童クラブについても、安定的な運営を図るために市立化を進め、サービスや利用料金の平準化に取り組んでおります。

女性活躍につきましては、先ほどご説明したとおり、市役所が率先して取り組んでいるというところでもあります。

教育については、学力テストの無回答率が多いという課題がありましたが、総合教育会議での議論を経て、学力アセスや授業改善を実施するなど、学校教育の在り方を見直した結果、学力の向上が数字にも表れてきているところでもあります。一方、不登校などについては、全国的にも増加傾向にあります。残念ながら改善に至っておりませんので、小・中学校の連携強化や不登校児への早期対応などを積極的に行っているところでもあります。

E S D、S D G sについては、S D G s未来都市に選定をされまして、誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまちに向けて取り組んでおります。

次に、5ページをお願いいたします。

将来都市像Ⅲ、健康福祉・環境都市につきましては、健康寿命の延伸に向けた取組として、健康ポイント事業を実施して、生涯現役応援センターを設置するなど、市民の健康で豊かな生活や高齢者の活躍につなげておりますほか、G20保健大臣会合を契機としましてP H O、ポジティブヘルスオカヤマを策定しており、実際に健康寿命が延びているというところでございます。

それから、防災・減災対策につきましては、平成30年7月豪雨災害を踏まえて、ソフト、ハード両面からの取組を進めておりまして、ソフト面では、自主防災組織の結成促進に積極的に取り組んだ結果、活動カバー率を6割台から9割台にまで引き上げることができております。また、ハード面では、浸水被害の激しかった地区を下水道整備の重点地区に追加したほか、事前水位調整の拡大にも取り組んでいるところでもあります。

さらに、環境分野では、低炭素型の環境に優しいまちづくりに取り組んでおりまして、温室効果ガスの排出削減に向けた世界気候エネルギー首長誓約への署名を行ったほか、具体的な取組として、新庁舎等の公共施設でゴミ処理施設の再生可能エネルギーが活用出来るかを検討しているところでもあります。また、指定都市市長会議では市長がまちづくり・産業・環境部会長を務めておりまして、ゼロカーボンシティに関する20市共同の宣言に向けて今取り組んでいるところでもあります。

次に、6ページをお願いいたします。

以上で前期中期計画における主な取組をかいつまんでご説明いたしましたが、我々を取り巻く課題としては、少子・高齢化、東京一極集中、市街地のスポンジ化、自然災害の激甚化、頻発化といった従来からの構造的な課題に加えまして、コロナに伴う新たな課題として感染拡大の防止や経済・生活の下支え、働き方・価値観の多様化、税収の下振れリスク、こういった新たな課題にも対応していくことが求められております。後期中期計画の策定に当たりましては、前期中期計画におけるこれまでの取組やこれらの課題を踏まえて策定することとしております。

次、7ページをお願いいたします。

後期中期計画における政策推進につきましては、長期構想に定める3つの将来都市像や10の都市づくりの基本方向を踏まえつつ、30の政策によって推進することとしており、その内容につきましては後ほどご説明をいたします。

次に、8ページをお願いいたします。

将来の都市の形としてコンパクトでネットワーク化された都市構造を従来からお示ししておりますが、引き続き都市拠点や地域拠点、利便性の高いネットワークの形成に取り組んでまいります。

次に、9ページをお願いいたします。

先ほど7ページで触れました30の政策について、3つの将来都市像ごとにまとめたものになりますが、その主な取組についてご説明をいたします。

まず、経済・交流都市ですが、産業については、少子・高齢化の中で事業承継支援に取り組むとともに、ももスタの取組をさらに強化して創業を支援するほか、サテライトオフィスなども含めた企業立地促進に取り組み、IT、デジタルコンテンツ産業の誘致、人材育成の支援など戦略的な産業振興を行ってまいります。

中心市街地については、路面電車の駅前広場乗り入れや延伸、環状化に取り組むとともに、芸術創造劇場を新たに整備することを踏まえ、旧城下町エリアを南北に通る商店街や旭川河畔といった歩行軸、文化交流軸を踏まえつつ、エリア俯瞰的な取組を推進してまいります。

観光、交流につきましては、岡山城の魅力アップや日本遺産のコンテンツ磨き上げを図るとしているほか、テレワークによって働く場所の制約がなくなった方が増えていることなどを踏まえまして、移住・定住施策の再構築を図ることとしております。

周辺地域につきましては、地域の未来づくり推進事業や地域おこし協力隊の状況を前回ご説明したところですが、地域振興基金を活用したさらなる地域振興施策を実施してまいります。

交通につきましては、先ほどご説明した法定協議会での協議を進め、バス路線再編の促進などを行ってまいります。

次に、10ページをお願いいたします。

下から2つ目の文化芸術につきましては、令和5年夏頃の開館を目指している芸術創造劇場を含め、文化芸術施設を核とした文化芸術の振興を進めてまいります。

次に、11ページをお願いいたします。

子育て・教育都市になりますが、子育てにつきましては、先ほど申し上げましたとおり、待機児童ゼロの達成に向けて取り組んでまいります。教育につきましては、引き続き学力の向上を図り、自ら考え表現する力をつけるとともに、不登校の早期支援にも取り組み、さらにはグローバル化に対応する英語教育やGIGAスクール構想を踏まえたICT教育にも力を入れてまいります。

次に、12ページになります。

健康福祉・環境都市になりますが、健康については、健康寿命延伸に引き続き取り組むとともに、コロナを踏まえた保健所体制を整備してまいります。防災・減災につきましては、先ほども触れましたがソフト、ハード両面からの対策を着実に進めるとともに、環境についても、市有施設での再生可能エネルギーの活用を進めてまいります。

次に、13ページをお願いいたします。

まず、広域連携につきましては、連携中枢都市圏の取組の深化を図るとともに、近隣の連携中枢都市圏との圏域間連携にも取り組んでまいります。また、大都市制度の在り方、県との二重行政の解消に関しては、特別市、特別自治市構想の実現について、指定都市市長会を通じて国に働きかけてまいります。

行財政運営につきましては、先ほどご説明したとおりですので割愛をさせていただきます。

次に、14ページをお願いいたします。

こちら、参考になりますが、コロナを踏まえた政策推進上の視点として、ニューノーマルの構築、ポストコロナに向けたまちづくり、安全・安心で包摂的な社会の実現の3つを挙げております。30の政策の中身はこのような観点を踏まえた上でこしらえておりまし

て、スイッチ！おかやまをはじめとする感染防止対策と社会経済活動の両立の取組やデジタル化の推進、東京一極集中から多極分散に向けての都市機能の充実やスマートでゆとりある都市デザイン、移住・定住施策の再構築などを行うこととしております。

資料4の説明は以上になりますが、別とじになります資料5については素案の本体になっておりまして、資料6は政策、施策を一覧表にしたものでございます。それから、資料7というのがありますが、こちらはSDGsとの関係を一覧表に整理させていただいたものとなっております。

私からの説明は以上になります。

○阿部会長 ありがとうございます。ただいま後期中期計画の素案につきまして概要をご説明いただきました。この後期中期計画の策定に向けての中核的な議論になるところでございますので、本日皆様からご発言をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

まず、どなたからでも結構でございますので、ご発言ございましたら挙手をお願いしたいと思います。

○杉山委員 資料4の9ページでございますけれども、政策の2の魅力とにぎわいのある中心市街地の創出ということで、路面電車の岡山駅前広場への乗り入れというのは前回いろいろ議論され推進して欲しいということで発言させていただきました。今回延伸とか環状化というのが入っています。こういう政策でいくということで合意ができたということなんでしょうか。もちろん私は、環状化と延伸をやるべきだという意見なのですが、これはちゃんと議論をされてこういう決定になっているのでしょうか、それともまだ今の段階ではやりたいという希望を述べたということなのかというのを教えていただければ幸いです。

○阿部会長 ありがとうございます。都市整備局からお願いできますか。

○交通政策課長 路面電車の延伸、環状化につきましては、昨年度検討を進めまして、基本的な計画をつくっております。その中で短期に進める事業として大雲寺から京橋まで、その区間を行うということで位置づけております。現在、都市計画に必要な予備設計を行

っているというような段階でございます。

○岡崎委員 将来の都市の形ということで拠点とそれからサテライトという地域拠点、この考え方というのは大賛成であります。ただ、やはり都心というものが浮かび上がってきていないとその地域拠点も弱くなると思うので、今の芸術劇場、路面電車の延伸も含めて都心の利便性、それからにぎわいの創出が進むと、地域拠点もさらに生きてくるのかなという感じがしています。

その際やっぱり一番になるのはネットワークの足となる交通機関で、やはり岡山の公共交通機関というのが若干弱いのかなという感じがしています。この地図の中の西大寺とか北長瀬それから高松辺りはJRの路線もあるわけですけど、ほかはほぼバスになります。岡南地区が臨鉄さんがなくなったのが非常に痛いところで、公共交通機関がないということで非常に地域の方も不便を抱えていらっしゃるという陳情を特に毎年のように、私も随分前の話ですから今あるかどうか分かりませんが、ずっとあったように思います。このネットワークというのをバスだけで大丈夫なのかなというのは若干ありますが、せめて今進めていらっしゃるバスの路線の整備というのはきちんと進めて落とすところまで行っていたきたいというのが一つ願いとしてあります。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。公共交通の件につきまして何か市のほうから。

○大森市長 岡崎さんのおっしゃるとおりでありまして、中心部を整備するということは、これは中心部のためだけやっているわけではなくて、周辺部ないしは県内各地との関係においても大きく意義があることだろうと思います。そのためには中心部から周辺部へのネットワークというのが不可欠になるということでありまして、LRTの整備などもそういう一環でやっているところであります。バスもそうなんですけれども、ただバスは全部民間の事業でやっています。したがって、バス会社と合意をしていかないとこの事業は進んでいきません。ただ、これからの議論、1月に向けてバス会社ともさらに議論を進めてまいります。もう既に水面下ではいろんな動きをしているところでありますが、岡崎さんのおっしゃったように、このバスといいますか市民の足を確保するという視点はどうしてもこれからのまちづくりに欠かすことができないだろうと思っています。ただ、今我々

が提示している形で全てが収まるのかどうかは予断は許せない状況になっております。しかしながら、3年間議論させていただきました。私としては、一歩でも前に進めながら、市民の皆さんまた都市圏の皆さん、岡山の街を楽しめるように、また便利になるような方策を打っていきたいと思っております。

○阿部会長 私もそろそろ目に見えるものを見せていかないといけないなど思っております。いつまでも議論をしていると、その間に公共交通がなくなってしまうということになりかねませんので。

それでは、続いて岡本委員さん、お願いできますでしょうか。

○岡本委員 拝見いたしまして、後期中期計画を立てるに当たって、成果指標の到達度が上がっているものが多く、市の行政担当の皆さんが非常に頑張ってくられたんだなということに感銘を受けております。

お話の中で、4ページのところで暴力行為とか不登校のところが少しまだ指標としては横ばい、あるいは少し増えたとおっしゃっていたのですが、このコロナ禍、これは令和元年度までのことで、今年どうなっているかというところがまた心配なところではあります。教育にしましてもこのコロナ禍、コロナを経験した後、ニューノーマルの在り方というのを模索していく時期だと思いますので、この不登校に関しましては、オンラインの教育ですとか今までと違った教育形態、もう少し緩やかな教育形態での学び方が推進されるといいのではないかと思います。また、それに向けた計画があればぜひ教えていただきたいなともいます。1点目がそれです。

2点目、12ページが健康福祉・環境都市ということで保健や福祉に関わる取組が書かれているのですが、他の頁のどれもが推進していくべき重要な政策だと思います。これを1つずつ健康の分野とか福祉の分野とか書かれているものが、単発で、縦割りでやられていくのではなく、全ての政策が連動している必要があると思います。やはりそういう縦割りで分断化されたようなものではなく、包括的に全体が機能するようなそういう動きをするような職種、例えばこのコロナ禍ですと保健所の保健師さんですとか保健センターの保健師さんですとか、そういった総合調整機能を担うような職種の強化が非常に重要ではないかなと思います。例えば保健師ですと、住民の力を活性化してネットワークを築いていくこともなさいますし、そういう平時からの持続的で継続的な地域の強化に資するよ

うな職種の強化をぜひお願いしたいと思います。またそれが全庁的に認知されて活用されるためには、そのリーダー的存在の育成もぜひやっていただきたいと思いました。

一番最後の17ページのところで、参考ということですが、コロナを踏まえた政策推進上の3つの観点ということで、安全・安心で包摂的な社会の実現というふうに掲げられていて、これについてすごく素晴らしい目標を掲げられたと思っています。やっぱり外国人の方が増加したり、高齢者の方でも自分から物を言わない人は置き去りになっていたりですとか、誰かが注視してそこに配慮を行き届かせていないと取り残されていってしまう人たちが必ず社会の中にいますので、この包摂という考えはとても大事で、誰一人取り残されないということ、こういう概念をぜひ大事にして行政を進めていただければ非常にいいと思いますので、意見として申し上げます。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。不登校の件で何かお答えいただくことございますか。

○教育長 不登校については、前期中期計画につきましては記述はしてなかったんですが、教育大綱等にも上げられまして、この不登校の増加を何とか抑えていきたいという事は我々教育委員会としても非常に大きな課題として捉えており、後期中期計画において一人一人の育ちを支える指導・支援の充実の中に新たに位置づけて、学校での強化体制、早期対応等の取組を進めてまいりたいと考えております。

○阿部会長 ありがとうございます。それから、岡本委員さんがおっしゃったご発言の中で総合調整を担う職とか、先ほどの新しい目標の中で掲げられておられました包摂的な社会というその横のつながりですね、そういったことがやはり私、市役所は弱いなという気が、いつも痛感しています。そのあたり何か取り組むというのは、これはまさに政策局の課題ではないかなと思うんですが、何かございますか。

○政策局長 おっしゃるように横串を刺すことも非常に大事だと我々は考えておりまして、30の政策がそれぞれあるわけでありますが、そのまとめ方として将来都市像という形でまずまとめさせていただいておりますし、それに加えて今回コロナがありましたので、

コロナに対応するための新たな観点ということで最後のほうにつけております3つの観点をお示しをしております。こういった考え方を示して、その中で政策をもんでいくことで横串といいますか横の連携をさらに密に取っていきたいと考えております。

○阿部会長 ぜひ後期の期間で具体的に目に見える形で動かしていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

○梶谷委員 一つは、これ後期の計画ということなんで、恐らく第6次総合計画で前期が終わって後期ということなんです、できましたら前期と後期でどこがどう変わったかというのがもう少し明確に分かるといいのかなと。要するに前期やって、これはもう前期で達成したからもうやめました、後期はこれを入れましたとか、前期はこれをやったけどまだ十分じゃないんで後期も引き続きやる政策ですよみたいなことが分かるほうが、第6次総合計画をどうやって実現するかという観点からすると分かりやすいのではないのかなという感じがいたしました。前期を踏まえて後期があるよというのが見やすいかなということでは思いました。

それから、先ほどもありましたけど、どうしてもこの政策を見ると各部局ごとに施策が出ていて、もう少し横断的にやったほうがいい施策もあるのかなという気がいたしました。特に文化とかスポーツというものと産業振興が意外と切り離されている感じがしたんですけども、これから芸術創造だとかスポーツをどう振興するかということが、これはやはり新たな産業創出につながるような仕組みをつくっていかないと、なかなか芸術創造もかなりの税金を投入しなきゃいけないという形になってくるのではないのかな。逆に言うとそういった文化だとかスポーツというところを活用しながら新たな産業とか価値を生み出していくようなことを一緒に考えるようなことが必要になると思います。

あと、もう一つは、公共交通とかいろんな交通の話が出ておりますけれども、改めてその公共交通がどこを担って、個別交通がどこを担うのか、そしてその結節点をどうデザインしていくのかということの一つ要るんだろうと思いますし、道路を造りますよというのがありますけれども、今まで日本の場合、通過交通を通すために造った道路が実はまた渋滞を起こすというようなことが起きていると思うんですね。これは本来は通過交通を通すための道路なのに、その周辺に商業施設を簡単に張りつけてしまったりすると、結局幾ら行っても渋滞が解消しないということになると思いますので、改めて本当にこの道路は通

過交通を通すのか、にぎわいをつくるのかというようなこともしっかり踏まえながら、土地利用と交通計画を併せて整合性を取っていくということが必要だと思います。街の中心部はやはり人の空間であっていただきたいと思います。

あとは、いずれにしても人口減少というのが当面避けられないということでしょうから、その人口減少ということを受け入れた上でどのような行財政運営をしていくのか、また都市の開発をしていくかということをもっと真剣に考えなきゃいけない時期に来ているような気がいたします。そういった面ではハード面の整備の前に、ソフト面でどういうふうにするかというこのコンセンサスをいかに取っていくのかを市民とか企業とか一緒にやりながら、行政とその民間が一緒になりながらこの都市像を共有して、それぞれが役割を果たすというそんな仕組みづくりを今後進めていっていただければありがたいと思います。

○阿部会長 ありがとうございます。梶谷委員さんのご発言の中で文化芸術、スポーツの話がありました。市で今新しい市民会館ということで芸術文化交流の拠点がつくられようとしておりますけれども、それと併せる形で何か文化芸術の関係でのソフト的な取組とございますか、何かございますでしょうか。

○市民生活局長 今ご紹介いただきました芸術劇場、令和5年の夏のオープンを目指して整備を進めております。そのハードの整備と併せて文化基本条例、それからちょうど文化振興ビジョンなどの計画を来年度作業したいと思って準備を開始したところであります。もう一つ、そこの開館へ向けてのイベントと申しますか、おっしゃってくださったように、核ができて、その周辺へしっかりと波及させないといけないという、そこはまさにご指摘いただいたとおりで、私が市民生活局長で前へ座っておりますが、後ろに産業観光局長も出席しております。切っても切れない関係ではあると思いますし、せっきくのこの大きな施設が岡山の文化シーンを変えるような起爆剤になれば、そういうふう考えているところでございます。今後ともご協力くださるようお願いいたします。

○阿部会長 ぜひよろしく願いいたします。

○山下委員 今回この様々な計画を見させていただいて、かなりいろいろなところに目配

りを出された取組を考えておられるんだなと思って感心して見ておりました。私の関心事からいきますと、やはり子育て・教育都市のところへどうしても目が行ってしまうのですが、けれども、先ほども縦割りじゃなくて横の連携をというようなご意見があったんですが、この点についても同じことを感じます。子育てをするというときに、その子育てに関する、例えば困難を抱えている家庭があったときに、どこに相談をしていいのか分からない、そしてそもそも相談をするというアクションをなかなか起こしにくいといったような人たちで、誰も取り残さないというそういうSDGsの精神でいきますと、そういう人たちをどういうふうに見つけてサポートして、それを横の、困っている内容が実際に物理的に困っていること、あるいは経済的に困っていること、あるいは精神的に困っていることというそのそれぞれのものをつないでいかないとその人の生活は立ち行かないわけですから、様々な連携が必要だと思っています。なので、そのような横の連携というのがやはりこの点でも必須かなと思いました。

それから、もう一つは、地域という言葉がこの中に多く出てまいります。その地域というのをちょっと考えたときに、政府などが行っている子供、若者の意識に関する調査などを見ますと、若者たちが家族や学校に対して居場所というのはとても感じているんだけど、すごく低いのがやはり地域です。地域に対しての居場所というものを感ぜられていない。その感じていない人に幾ら地域、地域というふうに地域を発信しても、多分届かないだろうなと思います。なので、若者、子供をその地域と結びつける何らかの方策が必要なのではないかと考えます。

それで、一つ思ったことが、岡山市の北区では確か区づくり推進事業などがあって、そのいろいろな地域、地域で事業を考えているわけなんですけれども、そういったときに、語弊があるかもしれませんが、町内会長さんなどを中心にしてやっておられて、町内会長さんは割と高齢の方が多くて、そういう視点で何か事業というものが考えられていて、どんどんマンネリ化して行って、若者やそこに住んでいる住民の声というのが吸い上げられていないのではないかなと感じることがありました。なので、若者やそこに住んでいる地域の中核になる人たちも巻き込むような、そういった何か応援とか支援といったようなものもあつたらよいのではないかなと感じています。感想です。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

今山下委員さんがおっしゃったこと、若者と地域を結びつけるというのがESDのまさにテーマでありまして、公民館とかその関係する小・中学校を中心にしていろいろやってきたところでありますけれども、これからSDGsも踏まえながらどうするかというのは大きなテーマになっておりますので、その中で考えていきたいと思っております。これはESD推進協議会の会長としての言葉でございます。

○梶谷委員 せっかく地域という話が出たので。どうしてもその地域といったときに、意外と抜けるのが企業なんです。その学区にある企業とか産業界が意外と地域といったときに抜けがちなんですけれども、ぜひこれからはその地域といった中に産業界も入れて考えていただければありがたいなと思っております。特に今年から学習指導要領が変わって、社会に開かれた教育課程の実現というのが大きな教育界のテーマでもありますけれども、これをやろうとしたときにはやはりそこへ関わる人が、先ほどありましたけど、引退した地域の人じゃなくて現役で働いている地域の人をどう巻き込むかということが非常に重要になってくると思いますし、逆に言うと子供たちにとってもそういった大人の現役で働いてバリバリしている人が一つのモデルにもなってくると思いますので、そこどうつなげていくか、そういった協力体制を取ろうと思うと我々産業界もこういった学校教育にどう関わっていくのかというのがこれから問われているんだろうなと思っておりますし、ぜひこの辺は恐らく学校協議会等の構成をつくる時にもそういったメンバーも入れるような配慮をしていただければいいかなと思います。

○阿部会長 ありがとうございます。

大森市長、お願いいたします。

○大森市長 今の山下さん、梶谷さんの話は、もうごもっともなんですよね。地域とは何か、地域の声とは何かというところで、これは多分永遠の課題ですけど、ただもう今の現状に満足しちゃうならない。だから、どういうふうに次の一手を仕掛けるかということは重要なんじゃないかなと思っております。それは、岡山の場合、他の地域に比べても、例えば町内会組織とかは割と完備されているほうだと思うんですよね。その完備されていることがプラスに働く場合とマイナスに働く場合っていうのがあって、そのマイナスのところをどういうふうに補っていくのかということはこの後期の計画の中でちょっと整理させて

いただくのがいいんじゃないかなというような気がいたします。ありがたいご指摘ありがとうございました。

○前野委員 概論の中で政策の23、24、防災・減災ということで取組をされるということで、これは非常に結構なことかと思っています。それで、具体的な内容が書かれている分野別計画の素案の125ページから129ページにかけて具体的な内容が記載されていますけれど、二、三、ちょっと私自身が見ていて欠けているなどと思ったところを意見として述べさせていただきたいと思います。

まず、例えばこの125ページを見ても、南海トラフ巨大地震の話が出てきていますけれど、実は津波の視点がないんですね。岡山の南部、県南部は軟弱な地盤のところ、地震だけでも堤防が沈下したりとかそういう被害も出ますし、その場合にはその時点で浸水してきます。それから、震源から距離は離れているんですけど、大体3メートル前後の津波も想定されていますので、そういった津波が来たときの対応をどうするかとか、あるいは津波に対して、国はある程度堤防強化を進めていますけれど、県とかはまだ未整備などところもありますので、市役所は堤防の管理者にはなっていないかもしれませんが、堤防をしっかり強化していただくように県とか国とかにしっかり働きかけていただきたいなというふうに思いました。

それから、昨今、超過洪水といいまして、現在数十年に一度、例えば50年程度とかそういったところで対応できるように、旭川であったりとかそういったところは整備されていますけれど、もちろん岡山市としても排水ポンプとかを強化したりとかそういうこともやられていますので、そこはそれで非常に結構かと思っています。ただ、熊本の大雨のように、今度は例えば50年に1回起きていたのが20年、30年に1回であったりすることも考えられます。そうしたときに、そのためにハード整備をしていくというのはなかなかできないということで、流域治水という言葉が最近よく出てきますけれど、流域一環として治水をしましょうということになりました。例えば川を管理している国とか県だけではなくて、その市町村が流域治水に積極的に関与していくことになっています。ですから、岡山市も当然流域治水の一役を担っていかないといけないと考えます。

そうしたときにいろんな方策が当然あるんですけど、例えば流域治水で、岡山市も先ほど説明されていましたが、用水路の水位を事前に下げるとか、もっと県内全体で例えば上流のダムを水位を下げるとか、いわゆる事前放流ですね。そうしたときに当然空振

りもあるわけですね。現在の予測システムではなかなか難しい点もあります。そういったときは、もろ刃の剣ではないですけど、空振りしたときには今度は濁水の危険性がすごく高まりますので、そういったときにはやはり市としてどう対応するかといったところも考えておかないといけないと思います。それに対応するためには、岡山市も当然雨水のタンクであるとかを補助されたりしていますけれど、もっともっとPRして各戸につけていただくとか、あるいは地下への浸透柵、そういったものを積極的につけていただくとか、あるいはグラウンドとかテニスコートも今後新たに整備されるようなものがあれば、例えば少し地盤を下げて貯留施設にするとか、あるいはそこをさらに浸透しやすい材料で造るとか、いろんな方策があろうかと思しますので、そういったところも含めてぜひ考えていただきたいと思います。

もう一つは、岡山市も田んぼとかそういった耕作地もたくさんあろうかと思えます。最近では田んぼダムとかそういった言葉も言われたりしていますので、そういったところで田んぼのあぜ道を利用するとかして貯留することで流出を抑えることが出来ます。排水ポンプの能力をどんどん上げていくと、今度は外水位が増えて川からの外水氾濫の危険が増しますので、貯留することでポンプの負担が少しでも緩和されるようにして、岡山市としてもそういう流域治水の一役を担っていくことが必要です。あるいは耕作放棄地とかもありますので、そういったものが貯留施設としての有効利用であるとか、そういったことがいろいろ考えられると思います。かなり細かいことなんですけれど、そういった視点も少し入ってくるといいかなと思いました。流域治水とか津波に関するある意味キーワード的なところがないように思いました。

○阿部会長 市のほうから何かご発言いただくことはございますか。都市整備局の関係かなと思いますけど。

○都市計画課長 先ほど流域治水というお話をいただいたところでございますが、ハザードマップを作成している中で、これを今後まちづくりという中でどのように使っていけるかというところでございます。少なくとも浸水の危険度の高いところで新しい町をつくるとか、人が集まるような施設を造るといのは好ましいことではないということで、これからこの浸水安全度、そういうところを考慮したまちづくり、そういったものに取り組んでいかなければならないと考えているところでございます。

以上でございます。

○阿部会長 大森市長、お願いいたします。

○大森市長 これは梶谷さんがおっしゃった横串の問題なんです。都市整備じゃなくて、これは下水道河川でやってますんで、こういうところが本当に問題になってくるんですけど、総合治水のほうはもう動いています。そういう面では新しい動きとして、よく国のほうも動いたと。非常にこれだけ気象の情報が的確になってきている中で、利水を一定の割合必ず確保しておかなきゃいけないというような状態じゃないというのはもうずっと有識者は言っていたわけですけど、ようやく踏み切っていただいたということだと思います。岡山市にとっても大きな意味を持つものでありまして、もう流域治水については今参加してその対応を図っているところであります。文字は入れさせていただきたいと思いません。

○前野委員 津波のほうもよろしくお願いします。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、杉山委員さん、お願いできますでしょうか。

○杉山委員 最近、山田方谷とか上杉鷹山とかの江戸時代の改革を研究してまとめて本を上梓したので、その中から何を気づいたかということについてだけ触れさせていただけたらと思います。やっぱり成功している改革というのは全て産業育成と人材育成なんですね。この2つが両輪で、2つなくして改革はできないと思っております。したがって、岡山市第6次総合計画後期中期計画の中の7ページに書いてある長期構想の将来都市像のⅠの活力と創造あふれる経済・交流都市を目指すということが第1に上がっているという意味をやはりもう一度再確認しないといけないのではないかと思います。恐らくこれがなければほかのことは絵に描いた餅になるんだろうということをまず認識しておいたほうがいいのではないかなと思います。そして、将来都市像Ⅱにちゃんと子育て・教育都市というのが上がっているので、やはり江戸時代から成功している改革というのと同じように、やっぱり岡山市もこの2つをきちっと押さえているということをまずもってお話をしておきたいなと思います。

それで、いただいた資料を見ていて非常に面白いなと思ったんですけど、その産業育成というところです。資料の5の20ページに岡山市の産業の稼ぐ力と雇う力が非常に上手な絵で描かれておりまして、付加価値とそれから雇っている人数ということで、この中で非常に面白いなと思ったのは、教育、学習支援事業が2万2,000人と、それから学術研究、専門・技術サービス業というのが9,000人で、この2つを足すと3万人を超えちゃうんですね。そういう意味では、岡山市は産業構成としてこういうところに特徴があるんだろうと思います。したがって、行政が手を差し伸べて指導していくということについては、もちろんこの政策の中に書かれています、ヘルス産業とかいろんなことが22ページに書かれておりますけれども、やはり教育とか学術研究というのは、つまりそれだけたくさん大学とか研究機関があるということが岡山市の特徴なのだろうと思いますので、ぜひそれを大切にしていきたいなと思います。

それで、資料3のほうに戻るんですけど、4ページのスマート化というところでマイナンバーカード等を活用しないといけないということが記載されています。これは多分従来から使っている表をそのまま使用したということなんだろうと思うんですけど、もちろん押印、書面、対面主義からの脱却を図るということはとても大切です。今ご承知のように菅総理はデジタル化を強力に進めていって、多分日本が大きく変わるという可能性は、保険証か免許証がこのマイナンバーカードと一緒にならない限り変更はないと私は思っています。そういう意味では菅総理はとってもいいところを突いていまして、それさえ変われば、もっと大きく変化していくのではないかというふうに思います。書けることと書けないことがあるかも知れませんが、ぜひ行政のスマート化というところではそういうことが既に国会あたりで議論されているので、そういうことも念頭に置きながら検討していただけたらと考えます。

それから、将来都市像、子育て・教育都市というところで少しお話をしたいのですが、iPadは今岡山市の小・中というのは100%もう普及しましたか。実は中国学園でコロナ禍でどうするかっていうので、いろんな議論を何回も委員会を開いて議論しました。いろいろ調べてみると約2割の学生がスマホを持っているけどパソコンは持っていない。もっと大変なのは、実は家庭環境がWi-Fiが通っていない、あるいはWi-Fiが通っていても細くて、授業でやるような大容量のデジタル信号を受け取れないということが分かりました。2割ぐらいの学生たちにルーターを無料で貸し与えるということを考えています。恐らく小・中の生徒が自宅で学ぶ場合、課題が出るのかどうかも私は理解し

ていません。ただiPadを持たせるということは家庭学習もiPadを持って帰ってやってこいということがあるのか分からないですけど、そうすると家庭環境におけるWi-Fi環境も調べないと整合性がなくなってしまいます。お聞きしたいのは、そういうデータをちゃんと取ってらっしゃるんでしょうか。私は個人的には戦後日本ってとってもいい国になったと思っているんですけど、経済格差はすごく広がってきていて、極端に豊かな方と極端に貧しい人が出ています。差別用語になるかも分かりませんが、シングルマザーとかシングルファーザーの家庭っていうのは大変苦労されていて、家庭でWi-Fi、あるいはWi-Fiがあっても部屋がないので勉強をそういうところでしたくないとか、そういう学生のアンケートを見ているので、どこまで岡山市がその教育に責任を持つのかということがあるかも分かりませんが、少なくともそういう状況をマクロでは把握しておいていただきたいなというふうに思います。

最後に、将来都市像で全国に誇るまちをつくるということで、その一環として都市を再生するということがあるのだらうと思います。岡山芸術劇場ができて、近辺が再開発されてすばらしい街になっていくんだなということで私も個人的にはわくわくしているんですけども、一言申し上げておかないといけないのは、芸術劇場というのはあくまで箱ですから、中身をどうするのが最大の課題です。箱だけは多くの施設で設置が増えているように感じますが、やっぱり中身をどうやってやっていくのかということは今からしっかり考えていただきたいなと思っております。

それから最後に、個人的にはやっぱり岡山城を岡山のシンボルとして投資をしていたらと岡山らしさというのが生まれてくるのではないかなと思います。ぜひ岡山城、それからあの近辺にぜひ再投資をしていただいて、しっかりあそこの近辺をつくり上げていただくと、恐らく岡山市民が誇りを持つようなものが出来上がるのではないかなと思います。

結論からいうと、順番は確かに本当に正しく書かれていて、将来都市像Ⅰの経済を先ずやってください。それから、2番目に教育をちゃんとやってください。どこまでやるかということについてはいろいろと議論はあるかも知れませんが、しっかりこの順番を間違わないで進めてください、ということになると思います。現実には経済格差などがあるので、思った以上に大変なことも事実です。そして最後に、全国に誇れるようなそういう街をぜひ岡山城を核にしてつくり上げていただきたいというのが私の意見でございます。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。いろいろとポイントのご意見をいただきました。学生の経済格差の問題などは市のほうで何か捉えられておられますでしょうか。

○大森市長 この経済格差というか、もう全世界そうですからね。これだけ経済がグローバル化したら、もう必ず格差が起こってくると。当初はトリクルダウンのような議論もありましたけど、そうはなっていないというのがもう証明されているということだろうと思います。したがって、そういう大きな議論というのはなかなかこの市でできる話でもないわけで、我々としては開いた格差、困っている方々をどうやって救っていくのか。山下さんからもそういうお話がありましたけれども、そういったところに注視していかなきゃならないだろうと思っているんで、例えば一つ、今年から動き出したのが奨学金ですね。奨学金も、給付型でやろうというふうに変えました。しかしながら、逆に予定している人数が集まらないんですね。だから、それは我々の発信不足であるわけで、そういったものをいろいろと、急に制度を変えてもなかなか市民に浸透しないってところもありますから、ぜひとも杉山先生、いろんところで大学が絡んでいるわけでありまして、それは阿部先生も同じだと思うんですけども、一つ一つ今そういうの見直しをしています。一番最初に岡崎さんからお話があったように、市の体力というのは一定のものになっているわけですけども、その体力の中のプライオリティーとしてはある程度高めに今の格差是正をやっていますから、足りないところがあればどんどん指摘をしていただくのと同時に、ぜひ学生にお話をさせていただければと思います。

○阿部会長 大森市長、マイクをお持ちのついでで申し訳ないですが、先ほど杉山委員さんのほうから岡山城の話が出てまいりましたけれども、歴史文化的な背景も踏まえて、岡山城は岡山市の管轄だと思います。芸術文化劇場の建設もごございますけれども、そういったことも踏まえて、何か岡山の歴史文化的な背景を踏まえたまちづくりへの取組と申しますか、そういったことは何かございますでしょうか。

○大森市長 岡山城は、実はもう耐震上改修せざるを得ないということで改修をいたします。もう少しするとあそこの天守閣が利用が不能になります。実はその後、その岡山城を、今杉山先生のおっしゃったように、歴史という岡山が持つ江戸時代、1597年からの宇喜多家からの歴史の本山ということで、そういう頭の整理で展示ももう見直していこうじ

やないかというように考えていまして、これは言っているのかどうか分かりませんが、磯田道史さんをお願いして、1人がストーリー性を持ってコーディネートしていただくのがいいだろうということで今やらせていただいております。そして、岡山城の活用、ユニークベニューみたいな活用もまたやりやすくなるようにいたしますけど、それだけじゃなくて、実はその周辺一帯、市民会館もなくなりますし、石山公園をどういうふうにしていくか、そして川べりのところが今国土交通省で河川敷も整備していただいております。市民が憩えるようなそういう場にしていくということを考えているところであります。どちらにしても杉山先生がおっしゃるようにシンボルであることはそのとおりでありまして、もっとこうやればいいんじゃないかみたいな話があれば教えていただければと思います。

それから、劇場の話はもうおっしゃるとおりでありまして、これは結構大変なんです。これは大ホールと中ホールがあって、大ホールは多分いろんな人を呼んでくれるとそここのことは生まれてくると思うんですが、今のこれからの中ホールとそれから15のスタジオがあるんです。これをフル稼働させるには、よっぽど市民の皆さん方にそこに入ってもらうなきゃいけない。これがどうやって盛り上げていくのか。今中原局長はここについて発言しませんでしたけども、一番重要なところでありまして、彼女も十分認識をしているところであります。多分、ただ具体的に今ここで言えるものがないので止まっていますけれども、令和5年の夏と言っていますが、まだ3年もあるぞということではないのはよく分かっているところであります。頑張っていきます。

○前野委員 今の流れで少しだけ。岡山城を歴史文化を生かしたところにして人に集っていただきたいと、こういう話だと思うんですけども、後樂園とやっぱりあそこはセットなんです。私は常にいろんなところで言っているんですけど、あそこに月見橋というスチールができた橋がありますけれど、今後どこかの段階で修理もしくは付け替えとなることがあるんですか。これは岡山市の管理なんですかね。できたら、私の個人的な希望ですけど、例えばクラウドファンディングとかして、例えば錦帯橋のような、あるいは木でできた、岡山大学は今、隈研吾さんといろいろリンクしてやっていますけれど、そういう岡山県は木の文化、特に県北のほうで木の文化というのがあるんで、江戸時代の京橋のイメージにするとかして、岡山城と後樂園をつないでセットで何かそういうのができたらすごく、もっといい、全国的にPRできるものができるのかなと思ったりしています。これは

個人的な希望なんですけれども、もし考えられるようだったら考えていただけるといいんじゃないかなと思います。最近では瀬戸内市ですかね、刀、山鳥毛をクラウドファンディングで購入したりとかそういったこともありますので、私もクラウドファンディングが出れば多少なりとも寄附しようかなとは思っています。今の橋が悪いというわけじゃないですけど、ぜひみんなが集えて、全国的にも自慢できるようなものができたらいいかなと個人的には思っています。

○阿部会長 ありがとうございます。ぜひご参考にしていただきたいと思います。

○片山副会長 政策別主な取組の中の観光のところなんですけれども、岡山市の魅力や特色が十分に伝わる情報発信の強化、関係人口の創出、拡大など、首都圏からのさらなる移住を促進というところがあるんですが、観光業につきましては多分コロナの影響をもろに受けた、本当に大変なところだと思います。オンライン観光というのを実行しているところもあると思うんですけれども、一般の人たちもオンライン観光ということでいろんな国の、または日本のそういったものを見て楽しんでいるということがあって、それはそれでいいんですけど、やっぱりただ見て楽しむだけじゃなくって、その関係を継続させて、次は実際に来てもらうような方向につなげていくことができないかなと。そういったことが観光とか移住とかに関係してくるのかなと思います。この情報発信のやり方。オンラインであるならそのオンラインのコンテンツをいいものをつくるとか、そういったことにも力を入れていただきたいと思いますのですが、たまたま中継だったんですが、インドネシアに向けてインドネシア語で岡山を発信している動画を見ました。たまたまそれも雨の日に当たったらしくて、画面がぼけて全然迫力がなかったんですね。すごく残念だなと思って、そういうときはしっかり岡山のいいところを発信できるようなことができたらいいなと思いました。

そういうことも含めまして、今本当にオンラインで何でも考えるということが、今杉山先生がおっしゃいましたように授業も大学の場合は、阿部先生もおっしゃいましたように、ほとんどまだオンラインでやっているところも多いように聞いております。要するにデジタル化ということで、先ほどテレワークとかというお話もありまして、国を挙げてデジタル庁をつくりました。岡山市の計画の中に、デジタル化に関する何か記述があったかどうか、もしあったら申し訳ないんですが、やはりデジタル化というのをどこかでこの後

期中中期計画の中に入れたほうがいいんじゃないかなと。そのため、先ほど申し上げましたようにハードとソフトの両面あると思うんですが、両面ともかなりお金がかかることだと思いますので、その辺の予算化ということを考えて、デジタル化に力を入れていただけたらいいかなと思っております。

それからあと、先ほど申し上げました女性の活躍なんですが、これは何回も出ていることですが、子供の預け先の不足ということ、これをこれからも後期の中にも、計画の中にももう一度入れていただきたいなど。女性が活躍するに職場や周囲の理解ということや、それから逆に今度女性の昇進意欲が低いということもあるんですけれども、やはり一番大きいのは子供の預け先が不足しているんじゃないかなと思います。ここは行政の力が十分に発揮でき、力が必要とされるところではないかと思っておりますので、今までもご努力されていることはよく存じ上げておりますけれども、ぜひこれも続けてお願いできましたら、女性がもっと活躍ができるんじゃないかと思っております。

今までの考え方とか社会のシステムなど何もかも本当に大きく今変化していますし、また変化しようとしています。不易流行という言葉がありますが、今この流行の面で非常に大きな影響を受けているわけなんですけれども、でも不易、変わらないものもあるんじゃないかと思っております。ではこの岡山市でコアのようになるもの、市民生活の上で中心になるものは何か、そんないい言葉がないかなと考えておまして、今朝の新聞を読んでいましたウエルビーイングという言葉を見ました。政治の世界でも日本ウエルビーイング計画推進プロジェクトというのがあるそうで、身体的、精神的、社会的によい状態というものを表しているのがウエルビーイングだそうです。岡山はウエルビーイングな都市になれる要素をたくさん持っていると思っています。それはなぜかといいますと、外国人の留学生が進学したり就職したりするときに、岡山市で進学したり就職したり、またその後家庭を持ちたいと、岡山にいたいと言っています。これも日本語学校の18年度の卒業した学生の進学先なんですけれども、全国に散らばってはいるんですけれども、150人くらいの中で岡山に約48%、50%近い学生が実際に進学しております。近畿が30%で、関東、四国がそれぞれ8%程度です。やはり岡山は大変住みやすいんです。これは日本人も思っていますけれども、外国人も思っているようで、そういうことを考えますと、ぜひこの住みやすい岡山を引き続き多文化共生社会としてのいろんなサポートっていいですか、それを市のほうも考えていただけたらよりウエルビーイングな都市になるのではないかと、住みたい人が増えるのではないかと思っております。

ただ、その多文化共生社会の場合は外国人だけでなく、日本人、特に就職した場合やはり日本人の意識の変化というのも必要になってくると思いますので、その両方を考えてやっていかなきゃならないのではないかと考えております。

以上でございます。

○阿部会長 ありがとうございます。デジタルの環境、女性の活躍支援、それから多文化共生社会ということで非常にポイントになることを言っていただいたかなと思います。市のほうから何か取組等についてご発言いただくことございませんか。

○大森市長 片山さんのおっしゃっているところの女性の活躍なんですけど、岡山市も相当の管理者、管理職の人間を増やしたり、今局長以上も4人いるというような状況にはなっているんです。何のために女性の活躍を促進するんだっていうように考えたときに、今の結果どうなんだろう。今非常にそういう面ではスムーズにやっているんですけども、それは定性的なことだけなんだろうかっていうふうに思いまして、今回、ちょっと話は変わるんですけど、氷河期時代の人たちの採用をしたんです。そうすると6人の採用予定に1,425人手を挙げたんです。結論は8人採用することにしました。見てみると経歴がすごいんです。能力っていいですか、例えばTOEICでも930点っていうような数字の方もおられるんです。その中で女性も半数おられるんですけど、こういう人たちを採用するってどういうことなんだろうかって考えたときに、特にやはりその組織力というのが最大、組織力全体を上げるために女性の活躍をするという、促進させるというのに一番意味があるんじゃないかなと私は思うんです。

女性が管理職とか役員とかなりにくいっていうのは、一つはやっぱり出産。これは男にはないことですから、この出産をどう見るか。それから、もう一つは育児。育児は本来男性も同じようにできないわけじゃないんですけど、もう今の実態から見るとどうしても女性に負荷がかかっている。そこでマイナスになっているものをどうやって女性たちに活躍をしてもらおうか。そこが一つの大きなポイントではないのかなと。だから、総力の最大を目指すために今のポイント、出産、育児などをどうやって見ていくのかっていうことがポイントなんじゃないかなと思うんですけども、片山さん、どうでしょうか。

○片山副会長 本当におっしゃるとおりだと思います。そういったところのサポートがあ

ると、女性はもっと働きやすくなるということになると思います。ありがとうございます。ぜひよろしく願いいたします。

○阿部会長 それでは、私が最後になりましたが、今日の議論をしていただきました第6次総合計画の後期中期計画の素案ということです。2016年度から2025年度、10年間の後半についてということで、この後半の部分の意義を考えてみますと、岡山市は昨年度政令市になって10年ということで、私はこれからの5年間というのは岡山市が政令市としての存在感とか実力を具体的に示していく時期ではないかなと思います。今回の後期中期計画の素案というのを、これは内容については非常に素晴らしいものだと思います。これを着実に進めていくということですね。言葉で言うのは簡単なんですけども、これを具体的に実現していくというのは非常に難しい。私が担当しております公共交通の問題にしても、合意形成というのは延々と議論をして全く進まないというような状況にあります。これからはぜひ具体的に、言葉だけではなく成果を示していく。それで市民の合意を得て、さらに前に進めていくということが重要ではないかなと思います。

それから、もう一点は、都市として持続可能な都市というのを実際につくっていくということが大事です。今回の新型コロナというのは、持続可能ということが過去10年以上叫ばれていながら全くできてないし市民にも理解されてないということが改めて顕在化したことではないかなと思います。そういった意味で、前野先生からご発言いただいた自然災害の問題にしても、我々住民が十分に理解していない。それが巨大な災害が突発的に起こって、それで経済社会が混乱してしまうということですね。ですから、この総合計画の後半部分に向けては、こういった突発的な巨大な現象に対してどう対応できるか、そういった体力のある都市をつくっていくということが重要なことではないかなと思います。

それともう一点は、岡山市のグローバルな都市としての存在感を示していくことが重要だと思います。その場合に、今世界の方針としてSDGsということがございます。今回、岡山市のほうからSDGsと後期中期計画素案との関連性を関連づけた表を出していただきまして、具体的に取り組んでおられるということで安心いたしました。これで終わりではなくて、これが始まりだということですね。そういう気持ちでもって具体的に前に進めていくにはどうするのかということ、それから常に見直ししながら取り組んでいくといったこと、そういったことを考えていただきたいなと思います。

そういった中で、これからやはり重要なものは、最近国のほうでも議論されております

けれども、地球温暖化のような地球環境の問題ですね。それから、都市として見れば循環型社会の取組といったことも重要ではないかなと思います。そういった環境問題にも着実に取り組んでいるということが、岡山市のグローバルな都市としての存在感を示す一つの方向性になると思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

ちょっと雑駁な話になりましたけれども、以上のようなことでお願いいたします。

○岡本委員 資料6と資料8を拝見いたしまして、前期中期計画に係る令和元年度の成果指標の状況という項目と、後期に至る成果指標の案という項目を比べて見てみますと、目標が達成されたから削除されている項目もあるんですけども、目標が達成されていなくて低下したり横ばいだったりするのに削除されている項目があります。新規に立てられている項目もあります。これについてできれば一つ一つご説明いただければありがたいと思います。例えば低下しているのに削除された項目が、資料8で見ますと1の②ですとか6の②ですとか、ざっと見たので間違っているかもしれないんですけど、7の②ですとか19の①ですとか25の①。下がっているのに次の目標成果指標にはないというのはどういう意味なのかなというところを伺いたいです。もともとの評価指標が適切でなかったという判断なのか、うまくいかないのでリストから削除したということなのか、このあたりを教えてください。

○阿部会長 市のほうからお願いいたします。

○計画担当課長 計画担当課長です。

指標ですけれども、まず全体的に見直しをかけております。その中で幾つか指標、前期をやっていく中で課題というものも見えましたので、その課題をまず整理いたしました。まず、課題というのが、調査の周期が3年を超えている指標であるとか、指標の変動が外部要因に大きく依存していて市の政策評価が困難な指標とか、あと市民の満足度とか数値が上昇、低下した要因で説明が困難でできない、政策評価ができないとか、そういった課題が幾つか見えましたので、全体として見直しをいたしました。そうした中で課題となりました21指標のうちの15指標が、先ほどの委員もおっしゃったような見直しをした指標ということになっております。

○阿部会長 岡本委員、いかがですか。

○岡本委員 ありがとうございます。例えば19の1の「人権問題に関する講演会、研修会などに参加したことがある」の割合は、何かとても大事な指標のような気がします。先ほど暴力の問題もあがりまして、そういうところを大事にしなければいけないと思います。なかなかうまくいかなかった、あるいは測りにくいから削除するというのが本当にいいのかなどうか、そのあたりの議論が今回の会議でとても必要なんじゃないかと思っています。これが説明されないということがそもそも、説明があるのかなと思って待っていたんですけどもなかったんで、ちょっと疑問に思い聞かせていただきました。十分整理されたということですので、理解したいと思います。ぜひこういうことを開示してご説明の上、議論をするという市の体質を醸成していただきたいと思います。

○阿部会長 少し私の不手際のところがございまして、申し訳ございません。

それでは、大体予定の時間が迫っているんですけども、ほかの委員さんから何か追加でご質問いただくことございますでしょうか。ご意見。よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 それでは、ないようでしたらその他に移らせていただきます。

その他について事務局から何かございますでしょうか。

5 その他

○事務局 特にございません。

○阿部会長 それでは、本日予定しておりました案件は全て終了いたしましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしく願いいたします。

6 閉会

○司会 はい。それでは、閉会に当たりまして大森市長からご挨拶を申し上げます。

○大森市長 今日はどうもありがとうございます。一回しゃべらせていただいてまたというところもあるんですけど、何で私の答えが多くなっちゃうのかなと考えたとき、ちょっと出しゃばっているのかっていう、それを除外していくと、今日担当が来てないところ、それに対して答えさせていただいた。これもやむを得ないと思うんですが、3点目として、やはり委員の皆さん方の質問が、ある局の担当だけにとどまらないっていうところってのが大きいのかなと。だから、誰が答えていいかよく分からない。これがやっぱり横串の弱さなんだろうと思います。

菅総理が総理になったときに横串の話をされました。官房長官として各省を呼んでいると、多分、いや、それはうちの役所の話じゃないと。これは私もある省にいたときはそうでもないんじゃないかと思ってたんですけど、市長になって7年もやっていると本当によく感じる場所があります。しかしながら、これも永遠の課題で、阿部会長がおっしゃったように政策局のところもあるんですけど、政策局もかわいそうで、あまり指摘すると各局がもうそっぽを向いちゃうみたいところもあったりして、今政策局自身よくやってもらっていると思うんですが、常にそういう問題を意識しながらやらせていただきたいなと思っております。

そのほか各課題について様々なご指摘をいただきました。それらを踏まえて案をつくってまいりたいと思います。本当に今日はどうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

後期中期計画の策定に向けては本日が最後の審議となる予定でございます。委員の皆様方におかれましては長期間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。

それでは、これをもちまして岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆様ありがとうございました。